

## 意欲的に英語学習に取り組む児童生徒の育成

～Relevance を高めたタスク活動の工夫を通して～

### I 研究主題の設定理由

急激に変化する社会において、今後ますます国際化が進展し、国際的な相互依存が深まることが予想される。様々な情報媒体の発達により、世界中の情報を瞬時に得ることができる今、英語は国際的共通語としての役割も大きく、英語によってより多くの人々との交流が可能になる。2020年の東京オリンピックを見据え、小学校における英語教育の拡充強化、中学校における英語教育の高度化を目指した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（文部科学省）が出され、今後英語教育の担う役割はますます大きくなっていく。国際社会に貢献していくためにも、将来にわたり、英語学習に意欲的に取り組む児童・生徒の育成が急務であると考えます。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語特区の小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」も含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域であると言える。一方、小学校では外国語活動に難しさや恥ずかしさによる抵抗感を持っている児童が、中学校では語彙力や文法知識が定着しておらず、なかなか自身を持ってコミュニケーション活動にとりくめない生徒が少なからずいるという課題もある。英語特区で学ぶ児童がいる地域だからこそ、小中連携をより一層深め、より意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成を目指していきたい。

私たちは小学校における外国語（英語）活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地や、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読むことなどの「基礎学力」を児童・生徒に身に付けさせなければならない。このような基礎学力を身に付けさせていくためには、学習の原動力や推進力となり、最後までやり遂げようとする学習意欲を高めることが最も重要であると考えます。山梨大学の田中武夫先生も、「現在の学校教育が直面している最も大きな課題の一つは、生徒たちの学習意欲が下がっていることです。～中略～学ぶことが知的に面白い、役立ちそうだといった生徒の内発的な動機をいかに高めていくかが、今の教育の大きな課題となっています。」（『英語教師のための発問テクニック～英語授業を活性化するリーディング指導～』p.4）と著している。そこで、外国語（英語）活動において、児童・生徒や目標との「関連性」（児童・生徒自身とその授業で何を学ぶかという目的や目標との関連性や、自身の趣味・趣向との関連性）、既習事項との関連性をもたせたタスク活動（Task, task-based language learning）[\*タスク活動とは、コミュニケーション的な目的をもった活動のこと]（2015年度教育研究夏季学習会 講師：山梨大学 古家貴雄先生提供資料より）を仕組むことで、学習者が活動を身近に感じ、より意欲的に英語学習にとりくむだろうと考え、本主題を設定した。今年度は、本主題での研究二年目となる。

### II 研究の具体的な進め方

- 1 学習意欲についての研究をする。ARCS モデルを学ぶ。
  - ・関連した身近な話題の提供
  - ・「書くこと」の自己表現活動を取り入れる。
  - ・発問の工夫・疑似コミュニケーション体験
  - ・身近な人物，話題を使い，親しみやすさと具体性を高める。
  - ・視聴覚機器を使って視覚効果を高める。
  - ・場面設定をして，課題をもたせ，どの場面でどのような表現ができるか明らかにする。
  
- 2 小中部会で分かれて具体的な活動を検討する。
  - ・小学校部会では指導案の検討を中心に行った。
  - ・中学校部会では学年ごとに **relevance** を高める具体的なタスクを検討し，ワークシートを作成し，実践した。実践後は生徒のアンケートを元に意欲の高まりを検証した。
  
- 3 研究主題を意識した研究授業と研究協議
  - 8月28日 授業者 筒井 栄太教諭（山梨南中学校）
  - 2月 3日 授業者 小宮山公仁教諭（塩山北小学校）
  - ・研究授業では，研究テーマである【**Relevance**】と【**タスク活動**】を授業内容と照らし合わせ，①既習事項との関連性，②生徒自身との関連性 ③タスク活動の工夫を確認しながら検討を進め，研究を行った。
  
- 4 小学校外国語活動，英語科について学ぶ。
  - ・山梨市の英語特区についての情報交換をした。

### Ⅲ 研究の成果と課題

#### 1 成果

研究テーマにあるように，**Relevance** を高めることを意識して授業を計画することで児童はより意欲的に練習や活動に取り組んでいたように感じる。そのことにより，楽しく授業に参加しながら，単語や文章を繰り返し発音し英語の慣れ親しむことができた。昨年度から継続して取り組んできたこともあり，**Relevance** やタスク活動についての理解が徐々に深まり，自分の実践にも取り入れられるようになってきた。それは，夏季学習会において講師を招聘し，「タスク活動」について学習を深めたことも成果の一つであると言える。

#### 2 課題

「**Relevance** を高めた授業を行った後の児童・生徒像」についての検証が必要だった。本部会が描いている「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒像」を明らかにし，そのギャップ，学習者の変容の検証を何らかの形でしっかりと行いたい。また，小中連携を「授業を参観し合う」から，来年度はさらに一步前に進めていきたい。小中をつなぐことに向けて，各市会で話す場面を設けたい。山梨市は小学校英語科推進委員会があり，小学校の授業システムや小中連携，とりわけ中学校教諭による出前授業にも取り組んでいる。山梨市の先進的な取組を学び，来年度はより全体共有を図りたい。 (部長 山梨北中学校 広瀬竜太)